

## 検診結果の見方

検査項目	検査の内容	基準値(参考)	検査でわかること
既往歴・家族歴・業務歴	問診票などにあらかじめ記入、または医師が問診して記入		
担当医師による問診	自覚症状と多発症状の有無を調査		
身長・体重・腹囲・肥満度	身長・体重・腹囲の測定	BMI=19.8~24.2 ※BMI=体重kg/(身長m×身長m)	25以上なら肥満 18.5未満なら低体重
視力	屈折異常・弱視等の検査	矯正視力0.7以上	パソコン等の作業はこまめに目を休ませる
聴力	オーージオメーターによる1000Hz(30dB)4000Hz(40dB)の聴力検査	1000Hz30dB以内、4000Hz40dB以内の音が左右とも聞こえる	外耳から耳小骨まででおきる伝音難聴や感音難聴など
胸部X線撮影	胸部単純X線撮影	異常所見なし	肺結核、肺がん、気管支拡張症、心臓肥大など <b>気をつけること</b> タバコをやめる/減らす
血圧測定	動脈血圧の測定	最高血圧139mmHg以下 最低血圧89mmHg以下 ※この正常域内で数値がさらに3段階に分かれる	上が160mmHg以上、下が95mmHg以上だと高血圧。上が149~159mmHg、下が90~94mmHgは高血圧予備軍。上が100mmHg以下は低血圧 <b>気をつけること</b> 塩分摂取を控える(1日10g以下)適度な運動をする
赤血球数	赤血球数の測定	男性410~550万/μℓ 女性380~480万/μℓ	低い場合は貧血、高い場合は多血症、赤血球増多症 <b>気をつけること</b> 鉄分を積極的に摂る
白血球数	白血球数の測定	3500~9500万個/μℓ	貧血、心筋梗塞など <b>気をつけること</b> 鉄分を積極的に摂る
血小板数	血小板数の測定	12~32万個/μℓ	貧血など <b>気をつけること</b> 鉄分を積極的に摂る
血色素量	血色素量の測定	男性13.5~16.5g/dℓ 女性11.5~14.5g/dℓ	貧血 <b>気をつけること</b> 鉄分を積極的に摂る
肝機能	GOT(AST)・GPT(ALT)・γ-GTPの測定	GOT(AST) 10~30IU/ℓ GPT(ALT) 6~35IU/ℓ γ-GTP 男性12~65mU/mℓ 女性9~27mU/mℓ	肝細胞の傷害に伴い増加 <b>気をつけること</b> 暴飲・暴食・アルコールを控える
肝機能	HBs抗原・抗体、HCV抗体	陰性(-)	B型、C型肝炎
血中脂質	LDLコレステロール、総コレステロール、HDLコレステロール、トリグリセライド(中性脂肪)の測定	LDLコレステロール:70~139mg/dℓ 総コレステロール:120~219mg/dℓ HDLコレステロール:40mg/dℓ以上 トリグリセライド:30~149mg/dℓ	動脈硬化、脂質代謝、腎臓、肝臓の状態など <b>気をつけること</b> 甘いものやアルコールを控え、脂肪分の少ない食生活をする
血糖	血中のブドウ糖量の測定	血糖65~119mg/dℓ ヘモグロビンA1c(HbA1c)4.3~5.3%	糖尿病やその傾向 <b>気をつけること</b> カロリーの高い食品を避け、バランスの良い食生活を心がける
総ビリルビン	赤血球の分解による黄色の色素の測定	0.2~1.2mg/dℓ	肝機能、黄疸など
LDH	採血により血清中の濃度を測定	180~460IU/ℓ	骨格筋や心臓、腎臓などの状態
尿糖・尿たんぱく	尿中の糖・たんぱくの測定	ブドウ糖:陰性、たんぱく:陰性	全身疾患で腎臓の異常を伴うとき、急性・慢性腎炎、発熱、過労など、または糖尿病、肺炎、妊娠など <b>気をつけること</b> カロリーの高い食品を避け、バランスの良い食生活を心がける
心電図	心臓の検査	異常所見なし	不整脈、心房・心室肥大、リウマチ熱、心筋梗塞など
尿沈査	尿に赤血球、白血球などの細胞成分や細菌が含まれているかどうかを顕微鏡で検査	赤血球 4個以内/1視野 白血球 4個以内/1視野 上皮細胞 少数/1視野 円柱 なし/1視野	腎炎、ネフローゼ症候群、糖尿病など
眼底検査	眼底カメラで、網膜、脈絡膜、視神経乳頭、硝子体を検査	Keith-wagener 0度、scheie 0度	高血圧、動脈硬化症、糖尿病の合併症、緑内障など
ヘマトクリット値	赤血球の容積率を測定	男性40~50% 女性35~42%	貧血など <b>気をつけること</b> ビタミンCを積極的に摂る
尿素窒素	血中尿素に含まれる窒素量の測定	8~20mg/dℓ	腎機能の診断 <b>気をつけること</b> バランスの良い食生活を心がける
クレアチニン	血中クレアチニン量を測定	男性0.5~1.1mg/dℓ 女性0.4~0.8mg/dℓ	腎機能の診断 <b>気をつけること</b> バランスの良い食生活を心がける
尿潜血	尿中の出血の有無を検査	陰性	感染症、尿路結石、腎梗塞など <b>気をつけること</b> 塩分、アルコールを控え、水分を良く摂る
便潜血	便中の出血の有無を検査	陰性	大腸炎、大腸がんなど <b>気をつけること</b> 塩分、アルコールを控え、水分を良く摂る
上部消化管X線造影	食道、胃、十二指腸内部の様子をX線で検査	異常所見なし	食道炎、食道潰瘍、胃潰瘍、胃がん、十二指腸潰瘍など <b>気をつけること</b> 塩分、アルコールを控え、水分を良く摂る
尿酸	血中尿酸値の測定	男性3.1~6.9mg/dℓ 女性2.2~5.4mg/dℓ	痛風、腎機能の診断 <b>気をつけること</b> カロリーの高い食品を避け、バランスの良い食生活を心がける
総たんぱく	血中のたんぱく質量の測定	男性6.7~8.3g/dℓ	体の栄養状態、栄養不良など <b>気をつけること</b> カロリーの高い食品を避け、バランスの良い食生活を心がける
TTT、ZTT	膠質反応で肝機能をみる検査	4単位以下、12単位以下	肝臓のダメージの程度 <b>気をつけること</b> 休肝日を設ける
ALP	血中のALP量の測定	0.3~3U(ベッシー・ローリー法) 3~10U(キング・アームストロング法) 80~300IU(JSCC勧告法)	肝臓や骨疾患 <b>気をつけること</b> バランスの良い食生活を心がける